（様式第1号）

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票（評価対象年度： 令和7年度）

施　設　の　名　称	蔵王野鳥の森自然観察センター
指 定 管 理 者 の 名 称	特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会
施 設 所 管 部 課 (室)	環境生活部自然保護課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期　　間	管理形態	指定管理者（管理受託者）の名称	摘 要
平成24年 4月～平成29年 3月	指定管理者	特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会	
平成29年 4月～令和 4年 3月	指定管理者	特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会	
令和 4年 4月～令和 9年 3月	指定管理者	特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会	

※ 管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指 定 管 理 者 の 名 称	名　称	特定非営利活動法人　宮城県森林インストラクター協会
	所在地	宮城郡利府町神谷沢字菅野沢41
指　定　期　間	令和 4年4月1日～令和 9年3月31日（5か年）	
募　集　方　法	■ 公募　□ 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施　設　の　名　称	宮城県蔵王野鳥の森自然観察センター	
所　在　地	刈田郡蔵王町遠刈田温泉字上ノ原162-1	
設　置　年　月	平成6年 4月	
根　拠　条　例　等	自然観察センター条例	
設　置　目　的	優れた自然と多種多様な野生動植物との触れ合いを通じて県民の自然保護思想の向上に資するため、自然観察センターを設置する。	
施　設　の　内　容	敷　地　面　積	6，149．99㎡
	構　　造	鉄筋コンクリート造　一部2階建
	内　　容	1階　504.37㎡　　2階　623.70㎡
開　館　（　所　）　日	◇ 月曜日（休日を除く）を除く日 ◇ 休日の翌日（休日，日曜日，土曜日を除く）を除く日 ◇ 12月28日から翌年の1月4日までを除く日	
開　館　（　所　）　時　間	午前 9時00分 ～ 午後 4時30分	
指 定 管 理 者 が 行 う 業　務　の　範　囲	(1)自然保護思想の普及及び啓発に関すること。 (2)自然環境の保全に関する学習に対する支援に関すること (3)蔵王野鳥の森の自然環境についての情報の収集及び提供に関すること。 (4)自然観察センターの維持管理に関する業務 (5)上記の他、自然観察センターの設置目的を達成するために知事が必要と認める業務	
利　用　料　金　制	採 用 の 有 無	■ 有　□ 無
	利用料金の名称	入館料

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項　　目	事業計画	実　績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和7年度) (A)	前　年　度 (令和6年度) (B)	評価対象年度 (令和7年度) (C)		
開館(所)日数	303　日	304　日	302　日	99.7%	99.3%
延べ利用者数	10,000　人	7,943　人	7,941　人	79.4%	100.0%

※ 対象施設が複数ある場合は施設ごとに記入

(2) 延べ利用者数の内訳

項　　目	事業計画	実　績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和7年度) (A)	前　年　度 (令和6年度) (B)	評価対象年度 (令和7年度) (C)		
有料入館者	4,000　人	3,700　人	3,797　人	94.9%	102.6%
無料入館者	6,000　人	4,243　人	4,144　人	69.1%	97.7%
合　　計	10,000　人	7,943　人	7,941　人	79.4%	100.0%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入　　(単位:千円、%)

項　　目	事業計画	実　績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和7年度) (A)	前　年　度 (令和6年度) (B)	評価対象年度 (令和7年度) (C)		
県指定管理料	25,300	25,980	27,217	107.6%	104.8%
利用料金収入	1,000	1,203	1,233	123.3%	102.5%
その他	1,150	1,381	1,133	98.5%	82.0%
収 入 計 (a)	27,450	28,564	29,583	107.8%	103.6%

(2) 支出

人件費	16,445	16,484	18,051	109.8%	109.5%
施設管理費	3,535	3,266	3,029	85.7%	92.7%
事業運営費	6,895	8,055	7,981	115.8%	99.1%
その他	575	764	488	84.9%	63.9%
支 出 計 (b)	27,450	28,569	29,549	107.6%	103.4%

(3) 収支

収　支 (c)=(a)-(b)	0	-5	34	-	-680.0%
前期繰越収支差額				-	-
次期繰越収支差額				-	-

※ 自主事業の収支実績

収　入	**1,150**	**1,381**	**1,133**	**98.5%**	**82.0%**
支　出	**575**	**764**	**488**	**84.9%**	**63.9%**
収　支	**575**	**617**	**645**	**112.2%**	**104.5%**

6. 評価対象年度（令和7年度）の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

主な視点	項　目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】	評価	県の評価 【施設所管課記入】	評価
経済性	施設・設備の維持管理業務の実施	「施設・設備の維持管理計画」に基づき、法定・定期点検など特殊業務は外部委託とし、職員は日々の設備・安全点検を行いました。 野鳥の森の散策路については、暴風、大雨などのあとは即時に、また、通常時は定期的に点検を行い、枯損木、危険木、落枝の撤去などを行いました。 軽微な損傷の修繕、また大規模修繕までの暫定的な安全対策等を行いました。	点検、巡視により危険個所を早期に発見し、建造物や人に影響を及ぼさないよう、危険エリアの立ち入り禁止処置など早めの対策を行うことができました。	A	野鳥の森散策路において、暴風、大雨などのあとは被害の状況を把握しつつ、即時に県に連絡するとともに、適宜対応策を講じていた。また、通常時は定期的な点検により、枯損木、危険木、落枝の撤去などを速やかに実施しており、高く評価できる。	A
	収支実績	上記「5. 管理運営収支実績」のとおり。	物価高に対応するよう、サービスの質を落とさぬように節約につとめ、こまめに電気を消す、効率よく冷暖房利用するように努めました。	A	来館者へのサービスの質を維持しつつも、光熱水費の減少を意識し、施設の管理運営を実施したことは高く評価できる。	A
効率性	管理運営体制	所長1名、次長1名、準職員7名、パート2名で管理運営にあたりました。 ①教育機関の自然教室の場として、蔵王自然の家とも協力体制を継続し、野外教室の活動に有効に利用していただけるよう広報しました。 ②自然体験や観察を行うイベントを強化し、生物多様性を学べる施設として活動しました。 ③定期的にガイドの研修を行い知識の向上を図りました。	少人数でも効率よく対応できるよう、各職員の対応スキルも上がっており、繁忙期も対応することができました。	A	少人数での体制ながら、繁忙期にも対応できるよう、個々のスキルを高める取組を実施していた。また、定期的にガイド研修を実施し、専門知識の向上を図ったことは高く評価できる。	A
	人員体制	正規　2 人　非正規　9 人				
	運営業務（ソフト事業等）の実施	常設展示以外の館内の展示を季節ごとに入れ替え、また蔵王の成り立ちや情報など最新の展示に入れ替えました。 生物多様性に特化した展示や、建物周辺の動物の動画を展示に追加し、長年にわたる「野鳥のくらしを探ろう」などのイベントの結果の展示など、お客さまと作りあげることのできる展示を行いました。	展示の入れ替えにより、リピートされたお客様にも楽しんでいただきました。イベントに参加されたお客様、参加できなかったお客様にも調査結果など見ていただくことができ次のイベントへの参加を促すこともできました。	A	生物多様性に特化した展示や、建物周辺に生息する動物の動画を展示に追加する等、魅力的な事業を展開しており、高く評価できる。	A
有効性	利用実績	上記「4. 施設利用実績」のとおり。	事業計画の入館者数には達せず、昨年と同等となりました。熊による影響もあり、10月ごろから入館者が減りました。学校等の利用でも熊の影響により減ったことも考えられます。 野鳥の森利用者には熊鈴の貸し出しを行い、利用時の注意喚起などをおこないました。 入館の利用実績に含まれないトイレのみの利用者はのべ427名、イベント参加者は550名となっております。	B	利用者のニーズを的確に捉え、熊対策を盛り込みつつ独自の取組を展開した点は評価できる。 ただ、利用実績は横ばいである現状を踏まえ、今後は取組の検証と、多くの利用者数が見込める学校関係者に対する周知が求められる。 県としても、施設を活用し、どのようなイベントを企画できるか等積極的に支援していく。	B
	利用者サービスの向上	X、HP、Instgram、また緑保全団体のSNSを活用し、広く、野鳥の森の自然を知ってもらえるよう、季節ごとの自然を意識して発信しました。 地域情報誌、広報誌にてイベントの告知を行いました。 無料開放日「4月29日（開館記念日）、5月10日～同16日（愛鳥週間）、10月26日～27日（東北文化の日）」を実施しました。	野鳥の森入口掲示板、受付などに、通行止めや、危険、注意情報などを掲示し、ご来館くださった皆様に直接今の状況をお伝えするなど、安全にご利用いただくことができました。 センター入口の看板には館内でどのようなことができるのか、前の道路を通過する皆様にも見えるようにし、利用者の増加を図りました。また、気持ちよく楽しんでいただけるよう、丁寧な対応を心がけました。	A	「X」等のSNSを活用し、季節ごとの自然を意識した情報発信がされており、周知方法の工夫がみられることは高く評価できる。 野鳥の森の利用者に対して、適宜注意喚起の掲示物を設け、安全に配慮した周知方法がとられていた。	A
	利用者の苦情、要望等の把握とその反映	利用者の意見、要望等は「ご意見カード」に記入いただき、37件ご記入いただきました。 リピータ様から年間パスポートが欲しいとのご意見があり、5回で1回招待券をプレゼントするスタンプカードを発行する対応を引き続き実施しました。楽しく過ごすことができたというご意見をたくさん頂戴しました。	一人一人お客様に合った丁寧な応対を心がけた結果、「楽しかった、また来たい」というご意見の記入につながったと考えます。	A	利用者からは高評価の意見が多かった。また、要望等が寄せられた場合は、その内容に応じて適切な対応がとられていた。さらに、リピーターに対して招待券を配布する等実施しており、高く評価できる。	A
その他	県民の平等利用	利用者が平等に利用するために、特定の団体や利用者に対して有利不利にならないように、どの利用者、どの団体に対してもサービスが均一になるよう対応しました。	職員にも意識を高めてもらい、どの利用者にも概ね均一なサービスが提供できました。	A	施設利用者に対して、均一なサービスを提供できるよう、職員それぞれが意識を高めていたことが評価できる。	A
	安全対策	受付のそばにAEDを配置し、職員全員がAEDの技能講習を受けています。 消防訓練は年二回実施し、通報、避難、消火訓練を実施しています。 防火管理者は職員6名が受講し、乙種第4類危険物取扱者も6名が所持しており、緊急時の連絡先や近隣の病院等の連絡先を事務所内に掲示して、緊急時には遅滞なく対応できるようにしております。	消防計画は職員が変わる都度、作成しなおし消防署に提出しました。 自然災害も含めた消防計画を作成しました。	A	職員に対し、安全対策に有益となる資格の取得を推進し、緊急時の連絡体制を構築していたことは評価できる。	A

主な視点	項　　目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】	評価	県の評価 【施設所管課記入】	評価
その他	個人情報の保護	蔵王野鳥の森自然観察センターの管理に関する協定書第22条を遵守して、イベント参加者等からの個人情報の収集は、本人の理解を得た上で実施しました。特にご意見カードの協力者やイベント参加者の個人情報は集約し、所長を個人情報保護管理者に定めて、責任を明確にしたうえで管理保管しました。	イベント参加者やご意見カード、スタッフの個人情報などは金庫に施錠保管し、個人情報が書かれた保管不要な紙は、直ちにシュレッダーで裁断するようにしました。	A	情報保護管理者を所長とし、協定書に規定された情報管理について遵守していた。また、個人情報書類等は金庫に施錠により保管し、厳格に取り扱っていたため、高く評価できる。	A
	自主事業の実施	親子で生物多様性、生態系を学べるイベントを強化しました。 幅広い年齢層に野鳥の森を楽しんでいただけるよう、対象年齢に合わせたハイキングイベントを実施しました。 館内では、木を使ったクラフトコーナーを引き続き実施しました。	イベント回数75回　参加人員のべ550名の開催となりました。 天気の影響、熊の影響により中止となるイベントもありましたが、どのイベントも安全に終了することができました。 館内の工作コーナーは雨天時でも楽しめるイベントとして、のべ2037名の利用があり楽しんでいただくことができました。	A	天候不順や熊出没の影響により中止にしたイベントがあったものの、利用者数の増加につなげるため、館内での親子向けイベント内容を充実したことは、高く評価できる。	A
	その他の取組	ことりはうすの立地が観光地であることもあり、蔵王町の農林観光課、生涯学習課などと連携を密にしました。 また、外部評価委員会を設置、近隣の施設等から委員を委嘱し客観的な立場から意見をいただき施設運営に役立てております。	蔵王町への学校の教育旅行の誘致などにことりはうすの見学等を組み入れ、また、生涯学習課の蔵王町カードの取り組みに参加したことにより、他施設からことりはうすへのお客様の取り込みができるようになりました。 大河原地方振興事務所主催のイベントにも参加し、ことりはうすを知っていただくきっかけができました。 近隣施設との連携を取りつつより良い施設運営につなげることができました。	A	観光目的で蔵王エリアに訪れる方々を取り込むため、周囲の行政機関と連携し、施設の魅力を広く発信したことは高く評価できる。	A
総　合　評　価			たくさんのお客様に楽しんで、笑顔で帰っていただくことができました。 これからも安全対策、職員のスキルアップをより一層高めながら、よりよい運営に取り組んでいきます。	A	評価年度における各種実績を踏まえると、随所に創意工夫のある取組を実施しており、総合的に高く評価できる。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評　価	評　価　の　考　え　方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評　価	評　価　の　考　え　方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項　　目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	1.野鳥の森の木々は年数を経過しており、枯損木が非常に多く、倒木、掛かり木、太い枝の落枝など安全に安心して森を歩ける状態ではなくなっているが、処理には危険が伴うものばかりで、外部委託もできないまま、散策路の安全確保が問題となっている。 隣接する蔵王自然の家でも、野鳥の森を小学校などが多く利用しており、場合によっては命にかかわる問題であるため早急な対応が望まれる。 2.散策路の手すり、橋、階段など、劣化しており、暫定的な対応はしているが、枯損木の問題に次いで危険な状態となっている。 3.館内展示設備が経年劣化し、修復不可能で使えないまま2年以上放置された状態となっており、お客様に不便を強いている。	1.指定管理者では対応できない枯損木の処理に関しては、適宜予算を確保 し、対応する。 2.散策路の手すり、橋、階段等については、個別施設計画の見直し、計画年 次で修繕できるよう予算を確保する。 3.館内展示設備の経年劣化は把握しているところであるが、施設の老朽化対 策には組み込むことができない設備であり、引き続き対応策を検討していく 必要がある。